令和元年　教育委員会第８回秘密会　会議録

日　時　　令和元年５月14日（火）　　午後３時52分～午後４時10分
場　所　　教育委員会室

議事日程
第　１　報告
【指導課】
（１）令和２年度使用　教科用図書採択について

出席委員（５名）

教育長	坂田　融朗
教育委員長職務代理者	中川　典子
教育委員	金丸　精孝
教育委員	長﨑　夢地
教育委員	俣野　幸昭

出席職員（７名）

子ども総務課長事務取扱 子ども部参事	恩田　浩行
九段中等教育学校経営企画室長	大塚　光夫
子ども支援課長	新井　玉江
子ども施設課長	小池　正敏
学務課長	纓片　淳一
指導課長	佐藤　友信
主任指導主事	佐藤　達哉

欠席委員（０名）

欠席職員（５名）

子ども部長	大矢　栄一
教育担当部長	村木　久人
子育て推進課長	中根　昌宏
児童・家庭支援センター所長	安田　昌一
文化振興課長	永見　由美

書記（２名）

総務係長	村松　紀彦
総務係員	橋本　　悠

坂田教育長　それでは、再開をさせていただきます。

ここからの、先ほど申しました案件につきましては非公開となります。よろしくお願いします。

◎日程第１　報告

指導課

（１）令和２年度使用　教科用図書採択について

坂田教育長　それでは、令和２年度使用 教科用図書採択について説明をいただきたいと思います。

主任、よろしくお願いします。

主任指導主事　教科書採択についてご説明申し上げます。

小学校、中学校、中等教育学校で使用する教科書を、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づいて、千代田区でも、千代田区立小・中学校・中等教育学校（前期課程）教科用図書採択事務要綱及び細目、また千代田区立九段中等教育学校（後期課程用）教科書採択にかかわる基本方針、また千代田区立学校特別支援学級用教科用図書採択にかかわる基本方針に基づいて採択を行ってまいります。

今ご説明申し上げた資料が１から３番になります。こちら、要綱、細目等につきましても、昨年度から特に変更、また修正した点はございません。

続きまして、添付させていただきました資料４から10についてですが、こちらは、教科書採択における公正確保の徹底及び採択事務処理について等の文科省や都教委からの通知、また小学校用図書の平成30年度に行われた検定結果でございます。

続けて、また資料11から12については、区で行う各会議、採択に関連する各会議議事内容と教科書展示会の実施についてのご案内等でございます。

また、あわせて最後に、別添資料のほうをつけさせていただきました。こちらにつきましては、小学校教科用図書採択において選定委員をお務めいただく予定の教育管理職、学識経験者の先生、また保護者代表の方々です。ご確認いただければと思います。

私からは以上です。

坂田教育長　はい。ありがとうございました。

ということで、また、連日、教科書に目を通していただきまして、ありがとうございます。また採択の時期が参りまして、相当の数でございますので、精力的にひとつよろしくお願い申し上げます。

今般、一番最後のところに選定委員ということで、委員長が和泉小の渡辺校長先生、副委員長に昌平小の清水明校長先生と、以下それぞれ、科目ごとの先生方あるいは学経の方々、ＰＴＡの方々という構成の中で選定作業に入るということでございます。

何かお気づきの点等がございましたら、よろしくお願い申し上げます。
金丸委員。

金　丸　委　員　まず第１点は、この図書選定委員会の名簿について、この方々、これは教育長の名前で選任をしたということなんでしょうか。

坂田教育長　教育委員会としてですね。

金　丸　委　員　教育委員会であれば、ここで採決をしなきゃいけないので。

坂田教育長　要綱上はどうなっていますか。

主任指導主事　要綱の中では、「選定委員会は、教育委員会の任命する次の委員をもって構成する」と記載されておりますので、この場で、先ほどご紹介させていただいた方々でご了承いただければと思っております。

坂田教育長　はい。そういう位置づけでございます。ご指摘のような位置づけでございますので、最後の名簿をもう一度ご確認をいただきまして、こういった構成の中で委員選定作業を進めていくということで、これは教育委員会の合意をとるべきというふうに思いますので、賛成の方の挙手をお願い申し上げます。

（賛成者挙手）

坂田教育長　はい。賛成全員ということで、それではこの案のとおり進めさせていただくということにさせていただきます。

金　丸　委　員　よろしいでしょうか、もう１点。

坂田教育長　金丸委員。

金　丸　委　員　これは質問なんですけれども、資料４というのがありますよね。資料４があって、これを読みますと、東京都でも何か調査研究をするようになっていますよね。この調査研究、ちょうど時期が重なっているんですけれども、一体、区のほうの選定委員会の調査研究とどういうふうに連動するのかよくわからないです。関連性について教えてください。

坂田教育長　指導課長。

指　導　課　長　委員ご指摘のとおり、区のほうで、実際、調査研究を進めていくのと同時並行で、東京都のほうも進めております。その資料４の５ページのところに日程表が出ておりますが、６月末ぐらいになると東京都教育委員会のほうでも、このような形で各教科書を分析しましたという取りまとめのものが出てきます。それを、私たち区教委、市教委、地教委等で採択するに当たっても参考にすることができます。ですので、若干都のほう、並行していますけれども、一応東京都のほうで調査研究資料作成を行ったものを、私の経験上では、参考にしながら、進めていくことは可能だということです。

ただし、今回、４番のところに書いてあるように、若干時間を要する見込みであるということですので、ひょっとしたらこの日程よりも若干遅れて出てくる可能性はあるかなというふうに感じているところです。

金　丸　委　員　よろしいでしょうか。

坂田教育長　金丸委員。

金　丸　委　員　この流れを見たときに、先生方の行われる教科書選定委員会の委員の選定

結果には、どうも東京都のほうは余り影響がなくて、その後の、教育委員会で検討するときに、プラスアルファの材料として、それを使うんだというような位置づけでいいのかなという気もするんですが、それでよろしいんでしょうか。

指導課長　まさにそのとおりでございます。こちらの東京都のほうも部会をつくって教科ごとに見ていくわけなんですけれども。やはりその結果を見てしまうと、地教委で行うものも、それに引きずられてしまうようなところもありはしないかというようなところもございますので、こちらはこちらでやっぱり区のほうで、先生方の部会で、調査研究部会を行うのとはまた並行した形で、まあ見えない形でといいますか、先生方は先生方のほうで、今、熱心に教科書のほうをこれから見て分析していただくということが大事なことなのかなと考えております。

金丸委員　ありがとうございます。

坂田教育長　はい。

ほかにございますでしょうか。

（なし）

坂田教育長　それでは、教科書採択に関する報告事項は以上とさせていただきます。

ほかに情報提供はございますでしょうか。

金丸先生。

金丸委員　前回の教育委員会から今日までの間に、新聞記事で言いますと、２つばかり気になっているところがございました。

１つは、東京、長野、徳島、宮城で、アメリカ・ハーバード大学の学生などが講師になって、高校生が、英語とか数学も入るんだろうと思うんですが、合宿形式で学ぶサマースクールが開かれるという情報が、４月２日の日経に載っていました。一体こういうものというのは、例えば九段中等なんかは参加する形になるのかどうかというのが質問の第１点です。

２つ目は、今日の日経に載っていたのですけれども、都立大山高校、ここ３年の間に有名私立や公立大学への進学者が相次いできたと。それの原因の１つとして、哲学対話というようなことをやっていると。具体的に言うと、大体10人から20人が車座になって、１つのテーマを決めて、質問したり答え合うという、そういうゼミ形式のもので、例えば、例としてきょうの新聞で載っていたのは、「愛と恋との違いは何か」というような、そういうもので議論をさせることで、自分の気持ちがうまく表現できるようになることになり、自信につながっていって、やる気につながっていくと、そういうような関係にあるんだというような記事になっていたものですから。一体この哲学対話というのは、具体的にどういうようなもので、それが、例えば九段中等で使えるか、使えないか。場合によっては、中学校で使えたらもっといいだろうなと思うんですけど、その辺で、できれば情報をご入手いただきたいなと思いました。

坂田教育長　はい。どうぞ。

指導課長　ありがとうございます。

まず、ハーバード大の講師、合宿のサマースクールについてですけれども、英語村のような形で、英語漬けで合宿をするような形のスタイルのものかというふうに思います。

九段中等のほうでは、もうご案内のとおり、各学年で段階的に英語力をつけていくためのカリキュラムというものが組まれていますので、今後この実践例を参考にしながら、どのように取り組めるかということは、学校長等と話を進めていく必要があるかなというふうに思います。

２点目の都立大山高校の哲学対話の件ですけれども、こちらも都立高校というところで九段中等が重なってくるのかと思います。さまざま、これから国公立だけでなく、さまざまな私立大学が大学入試改革においていろんな取り組みを始めており、例えばデータサイエンス部であるとか、英語と絡んだ学部が新しく創設されて、そこの倍率が非常に伸びてきている。内容的な向上も図っているというような動きがありますので、こちらの高校の実践も参考にしていく必要があるかなと考えております。

そして、哲学対話ということなんですが、この対話ということに関しては、高校のみならず、小学校、中学校、ひいては幼稚園からも、今回学習指導要領や幼稚園教育要領で、主体的、対話的で深い学びというものが重視されてきている中ですので、自分の考えを他者の考えと結びつけたり、それを、交流することによって、自分の幅を広げていき、そして決定、判断をしていけるような材料として、未来を生き抜いていく、課題を解決していくといった流れの中では、物すごく学習の本質、これからの新しい学習指導要領の目指す方向を捉えた実践を行ったがゆえに結果が出てきているという兆候かなというふうに思います。

そのような学習をしっかりやっていこうということで、一部、教員の中では、そういったアクティブラーニング、問題解決型の学習を行ってきているところですが、いよいよ高校と大学の接続が大きく見直されてくる。その中で大学入試のあり方が変わってくる。そして、いわゆる大学を受験する側のニーズが変わってきて、そういったデータサイエンス部のような、これから先の未来のために必要な力を身につけるために大学に行きたいという風潮が高まってくる中で、ますます今後、そういった授業の本質、教育の本質みたいなところを捉えた実践というのはふえてくるだろうというふうに考えているところです。

ですので、これは九段中等だけではなくて、幼・小・中と含めた、公立小学校、幼稚園、中学校が取り組んでいくべき内容であるなというふうに捉えておりますので、そういった実践に向けていこうというＰＲのほうは、諸々研修のほうに向けて行っているところではございます。

金丸委員　私が思うには、想像ですけども、大山高校では、いわゆる授業とは多分別個の枠でやっているんだろうと思うんですね。例えば、愛と恋なんていうのは、テーマとして結論が出るわけじゃないし、誰でも取り込めるような題材

でやっていくというのは、きっと意味があるところなんだろうと。答えが決まっていないだけに、誰でも何でも言える。それで発表ができるというところは非常にポイントになっているんじゃないかなというふうに想像しているんですね。そうすると、授業でやることとは別に、何かそういうようなことも考えたほうが効果があるのかなというような感じを私自身は受けています。

指導課長　ご意見ありがとうございます。今後、学校教育の中で、そういったお声があるということを伝えながら、行っていければなというふうに思っております。

また、授業においても、１つの答えを出すだけではなくて、多様な考え方のもとに課題を解決していくというようなことが、これからの本当の授業のあるべき姿、そういったものに向かっていくように、研修等もしくは指導課訪問等でアピールしていきたいなというふうに考えております。

金丸委員　よろしくお願いします。

坂田教育長　はい。

ほかに情報提供等はございますでしょうか。よろしいですか。

（な　し）

坂田教育長　はい。

それでは、一応、以上をもちまして、定例会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。